

群 教 セ	G15 - 01
	平 26.253 集
	高 - キャリア

# 平成26年度長期社会体験研修報告書

研修先：有限会社あずま産直ねっと

長期社会体験研修員 森田 健一

## I 研修内容

### 1 研修先の概要

有限会社あずま産直ねっとは、伊勢崎市の田部井町に位置し、野菜の栽培を中心に行っている農業生産法人である。栽培面積は露地栽培25ha、施設栽培2haであり、四季を通じて約30品目の様々な野菜を扱う。また就農を志す若者の見学や研修を積極的に受け入れるなど、農業後継者の育成にも力をいれている。耕作放棄地についても積極的な受け入れを行い、地域への貢献など、群馬県の農業に対して大きな役割を担っている。

### 2 研修先での主な研修内容

#### (1) 有限会社あずま産直ねっとでの研修

- 野菜の栽培に関する研修【4月～3月】（研修場所：あずま産直ねっと圃場）  
土づくり、播種、育苗、定植、管理、収穫、調整など野菜栽培に関する各業務を行う。
- 消費者交流に関する研修【9月14日】（研修場所：伊勢崎市民プラザ）  
よつ葉生協出店業者における直売会に参加する。

#### (2) 経営・流通に関する研修

- 生産者と大型量販店との交流会での研修【5月20日】（研修場所：伊香保温泉ホテル木暮）  
大型量販店主催の交流会に同行する。
- 取引先企業との商談【5月30日 9月23日】（研修場所：沼田の関連農家圃場）  
レストランバイヤーやスーパーバイヤーとの商談に同行する。
- 取引先企業見学【6月11日】（研修場所：株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス本社）  
流通会社の見学会（施設・設備）と商談に同行する。
- 利根・沼田地区における野菜の栽培、管理【7月3・4日 8月19・20・26・27日】  
会社の関係先農家において野菜の定植、管理、収穫の業務を行う。
- 新・農業人フェア【9月20日 2月8日】（研修場所：池袋サンシャインシティ）  
就農を考える者に対して、あずま産直ねっとの説明を行うため代表、社長に同行する。

### 3 キャリア教育実践

#### (1) キャリア教育資料について

長期社会体験研修で学んだことを、授業を通して生徒へ還元するため、キャリア教育資料「農業～自然環境と密接な関わりをもつ仕事～」を作成した。この資料は「1 栽培の現場」、「2 野菜づくり」、「3 収穫した野菜の流通経路」、「4 農業従事者へのインタビュー」、「5 農業を職業にするためには」の五つの構成からなり、「農業の理解」と「働くことの意義」について学習することを目的としている。また、「5 農業を職業にするためには」では、就農に関する国や県の支援策を群馬県農業公社に協力をいただき作成することができた。

#### (2) 実践の概要（県立伊勢崎興陽高等学校）

題材名 「農業という職業選択」（学級活動）

対象 いのちと緑を育む系列第1学年 31名 2学年 200名

対象生徒は、10月に系列を決定後、野菜の栽培について専門的に学習を始めた系列である。実際

の農業生産法人での栽培の様子について、動画や写真、実物で見たり触れたりすることで、農業生産法人の仕事について実感をもって感じられるよう工夫した。そして、仕事を行う上で社員一人一人に求められるものは何か。必要なものは何かを考えることにより、農業を通して「働くことの意義」や「農業の理解」を深めることを目的とした。

## II 研修成果

### 1 有限会社あずま産直ねっとでの研修について

○野菜の栽培は様々な仕事がある。土づくり、育苗、管理、収穫、後片付けなど、全ての仕事が重要であり、全て成功して良い野菜が収穫できる。そのため、身に付けなければならない技術や知識は多い。栽培（生産）の全ての工程に携わることができるのは農業の喜び、やりがいと言える。また自然環境との関わりが強く、悪天候による被害や好天候が続くことでの価格の下落など、農業の難しさを感じる事ができた。全てが順調に進み迎える収穫では、大きな喜びを得ることができた。

○研修期間で共に仕事をした方々の多くが就農を目標にしていた。「あずま産直ねっと」の研修生、農業体験として訪れた高校生や大学生、仕事をしながら自分が本当にやりたい農業を模索している方など、ほとんどの方が非農家出身であった。農業を仕事にするためには技術や知識を習得することだけではなく、農地や農業機械をどのようにして手に入れるかなど、解決しなければならないことがたくさんある。今後は就農を志す生徒へ対して的確な指導を行い、就農者育成に力を入れて行きたい。

### 2 経営・流通に関する研修について

栽培した野菜をどのようにして販売するかは、会社の経営を左右するものである。流通先を開拓することも農業生産法人には求められる。販売先からは、第一に野菜への「信頼」が必要になる。バイヤーとの商談は、実際の野菜を確認するため圃場で行うことが多い。栽培状況、管理体制など全てを見るため、一つ一つの仕事の責任の重さを感じる事ができた。農業は野菜という商品を通して「信頼」を売る仕事であることを学ぶことができた。

### 3 キャリア教育実践について

野菜栽培という体験から学んだ「責任」「忍耐力」「コミュニケーション」「チームワーク」などは、他の業種でも仕事をする上で重要になる要素である。生徒もこれまでの学習から、仕事をする上で必要なことは学んでいる。野菜栽培は全ての生徒が授業の中で経験があり、イメージしやすい題材であるため、実感をもってその必要性を学ぶことができた。また、仕事をする上で重要な要素については、学校生活の様々な活動から学ぶことができることに触れ、その学校生活の重要性を強調することができた。

## III まとめ

1年間の研修期間においても、自然環境から大きな影響を受ける場面に数多く遭遇した。それは雪害やひょうによる被害、豊作による価格下落などであり、農業生産法人を経営する上で想定できないことであった。どのような状況においても、作物をつくり続ける粘り強さというものを感じることができた。また、多くの仕事の中心は反復作業になる。莫大な数をこなすための忍耐力の必要性、効率的に仕事を行うためには、チームワークやコミュニケーションが重要になることも学ぶことができた。様々な作業を通して感じた達成感や収穫の喜びなど、仕事の「やりがい」についても、今後のキャリア教育や教科指導の様々な場面で生徒に還元していきたい。

(担当指導主事 相京 貴志)